

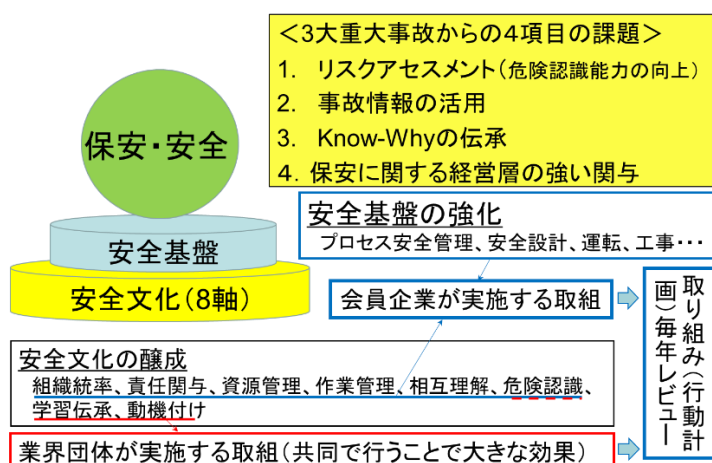
産業保安に関する行動計画の進捗状況

石油化学工業協会
2018年3月23日

石油化学工業協会では、2011年～12年にかけて会員企業が起こした3件の重大事故（塩ビモノマープラント爆発火災、レゾルシンプラント爆発火災、アクリル酸タンク爆発火災）を踏まえて、2013年7月に業界団体としての「産業保安に関する行動計画」を定め、毎年、前年度の状況について確認を行い、見直しを図っている。

2017年度の計画は、前年の実績を踏まえて策定し、昨年6月に公表した。現在、2017年度の実績取りまとめ作業を行っている最中であるため、暫定版として2017年度実績および2018年度計画（案）をご報告する。なお、実績の最終版および実績を踏まえた2018年度の計画は、2017年度期末である5月末に石化協ホームページにて公表予定。

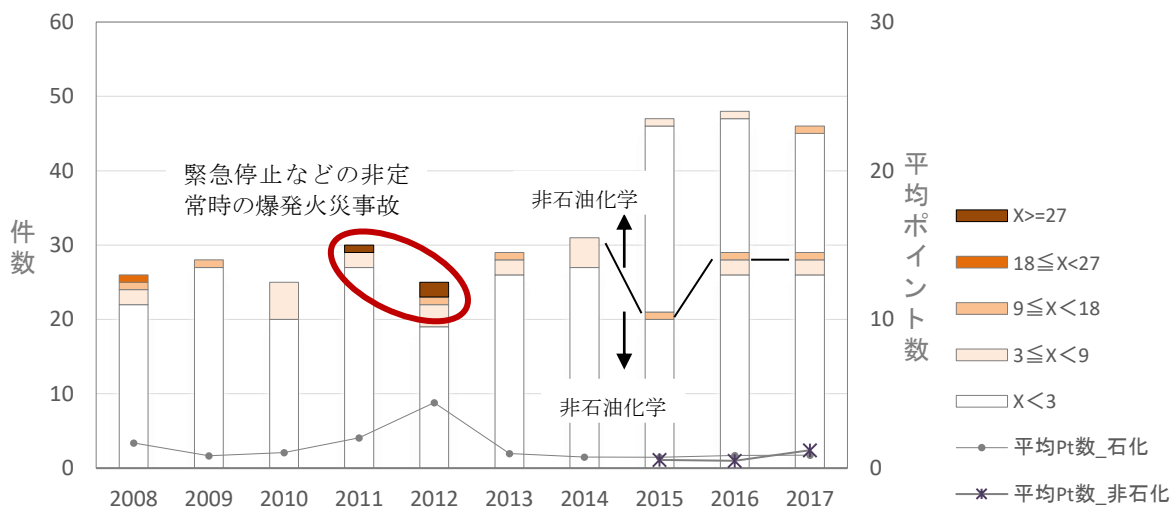
1. 産業保安に関する行動計画の基本的な考え方



2. 「2017年度産業保安に関する行動計画」の実績（暫定）

1) 事故の発生状況

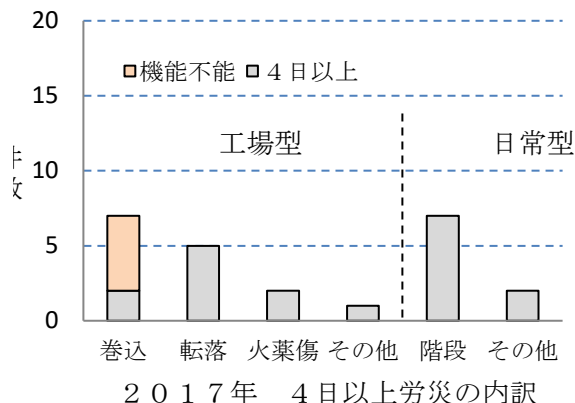
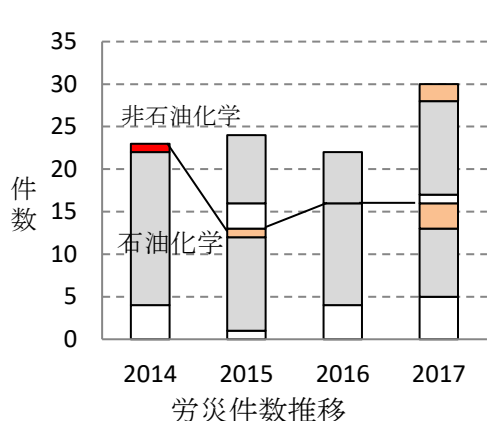
(1) 保安事故



2015年度から事故の把握範囲を会員の石化事業所から全事業所に拡大。
 2017年度は、前年度に引き続き18ポイント以上の重大な保安事故無し、2016年度と同様に20%（9件）がフロンガス漏洩である。

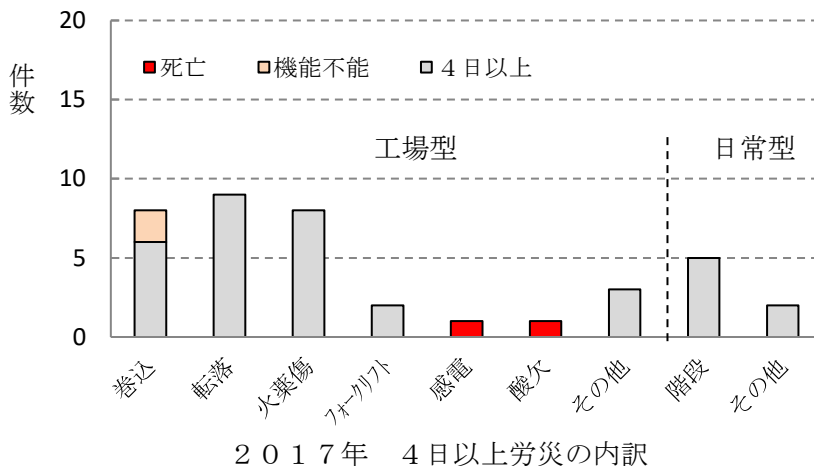
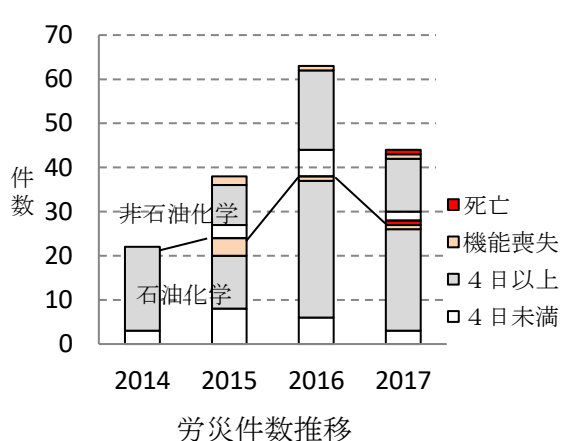
(2) 労働災害発生状況

① 従業員



従業員では、約半数が階段などの日常型の労災が占める。一方、工場型では稼働機器への巻き込まれなどが多く、また重篤な労災となっている。

② 協力会社



協力会社では、工場型の労災が大半を占め、巻き込まれ、転落転倒、火傷薬傷が多い。巻き込まれは従業員と同様に重篤な労災となることが多い。一方、2017年度では、事務所の100V照明用電源工事における活線作業での感電死亡事故、槽外での酸欠死亡事故が発生している。

2) 会員企業が実施する取組のガイドライン

(1) 経営者の産業保安に対するコミットメント

(2) 産業保安に関する目標設定

2017年度目標；重大事故ゼロ→工事協力会社の死亡事故2件のため未達

(3) 産業保安のための施策の実施計画の策定

① リスクアセスメントに関する取組み

② 事故情報の活用に関する取組み

③技術的背景(K n o w－W h y)の伝承に関する取組み

④保安の基盤としての取組み

(4) 目標の達成状況や施策の実施状況についての調査及び評価

(5) 自主保安活動の促進に向けた取組み

3) 業界団体が実施する取組み

「経営層の保安に対する強い関与」および安全文化を構成する8軸のうちの「学習伝承」と「動機づけ」を中心に取組み

(1) 経営層の保安に対する強い関与

現場に最も近い経営層である事業所長の意見交換会

(姫路地区 6月、千葉コンビナート 12月、水島地区 5月予定)

(2) 安全文化の醸成

① 学習伝承

三つの共有化(事故情報、経験、保安の取組み)について精力的に活動

(a) 事故情報

(保安事故)

・WGで解析し、会員各社の教訓となる内容を明確にして協会内で共有化

・最大ポイント(14)事故;

過酸化物を容器に入れて次工程の準備の為に待機、部分的に冷却が不足し爆発火災。4名が被災。

過酸化物などの不安定な物質に対しては、正確な物性、反応性を把握し、取扱い方法、プロセスを設計することが特に重要

(労働災害)

・WGにて内容を精査。槽外での酸欠事故については委員会にての詳細な説明で情報を共有化

・吊り上げロープに挟まれ、保護カバーを取り外して行うメンテナンス時の巻き込まれ労災が発生。機械安全に関する講演会を開催して啓発。

(b) 事故事例巡回セミナー開催

(c) 保安への取組み

保安推進会議(10月20日)開催; 会員5社から自社の優良事例紹介、Safety-IIに関する講演

保安研究会(18回/年); 7保安研究会にて現場課長の情報交換会、事故事例の研究(危険認識能力の向上)

② 動機付け

優秀な安全成績をおさめた保安功労者15名に対して10月20日に保安表彰

3) 産業保安に関するスマート化に向けた取組み

・スーパー認定への取組みに関する情報交換

・IoT、ビッグデータなどの活用、新たな制御システムなどに関する講演

- ・特定の技術に関して少人数で深く討議、意見交換を行う勉強会

4) その他

①東京、四日市・岡山中で「産業安全塾」を展開

東京産業安全塾；石化協・石連・日化協の会員対象とし3団体の共催、将来の幹部候補生育成年末年始を除く毎週火曜日の16:00-18:00で全15回

四日市産業安全塾；三重県が主催、四日市防災協および東京産業安全塾が協力、工場の幹部候補生育成。6月～8月で15回の講義

岡山産業安全塾；岡山大学が主催、水島防災協および東京産業安全塾が協力、工場の幹部候補生育成。7月～2月で14回の講義

②津波防災の日の講演会開催

3. 「2018年度産業保安に関する行動目標」の基本方針（案）

産業保安に関する行動計画の基本的考え方および2017年度の実績を踏まえ、特に以下の点に留意して2018年度の計画を立案する。

(1) 経営層の保安に対する強い関与

(2) 重大事故ゼロへの取り組み

- ・工事協力会社の安全管理への支援
- ・重大事故の再発防止

2011年～12年に発生した3大事故の教訓の再確認

- ・事故情報の共有化

重大事故ゼロの継続、および重大事故ゼロの目標達成のために、会員各社にとって教訓とすべき内容を加えた事故情報の共有化（保安事故、労災事故ともに会員企業の全事業について共有化）

- ・事故事例研究の継続

(3) スマート保安・新たな技術への取り組み

(4) トップダウンとボトムアップを組み合わせた活動

- ・トップダウン；保安に関する経営層の強い関与
- ・ボトムアップ；学習伝承、動機付け

(5) その他

- ・産業安全塾の充実

ご参考

本年5月末に2017年の実績及び2018年計画を石化協ホームページ (<http://www.jpca.or.jp/>) の環境安全の欄にアップする予定。

以上